

国分寺市図書館運営協議会第3期第1回定例会

日時：平成23年1月21日（木）午前10時から12時

場所：光プラザ 教育資料室

欠席：吾妻委員

傍聴：1人

事務局：第3期第1回目の図書館運営協議会を始める。はじめに教育長より委嘱状の伝達。

委嘱状の伝達を1人ずつ行う。

教育長：寒い中ありがとうございます。この図書館運営協議会は平成17年度、18年度議会で図書館のことが話題になり、公民館運営審議会のような利用者の意見を聞く機関を図書館にも設置する必要があるという意見をいただき、平成18年12月の議会で条例改正案が出され、全員賛成で設置された。19年、20年が第1期、21年22年で第2期が終わり、これから第3期が始まる。2年間よろしくお願ひしたい。これから運営協議会に新たに5人の委員が加わった。担当から説明があると思うが、教育委員会の附属機関なので教育委員会から諮問を出し答申を出していただき、併せて協議会として建議をするという条例になっている。それを踏まえ、本市の図書館のあり方、今後について、1年間協力いただき提言していただきたい。第3期の諮問については、本来は今日諮問が出せればよかったがもう少し教育委員会で協議する必要がある、次回に持ち越すことになった。その時にはよろしくお願ひしたい。内容としてはこの間、図書館のIT対応という課題が急浮上しており、議会でもそういった質問を頂戴しながら、これからの国分寺市の図書館のあり方としてIT社会の対応についても考えていく必要がある。その時にはこの図書館運営協議会の場で検討していただき提案していただくということを考えているということをお私の方で答えている。IT図書館とか電子図書館というものの活用については、現実問題としては先の話だが、世間は待ってくれない。どんどんそういった対応が求められる世の中になっていく。予算面を考えるとそうすぐにはできないが協議していただくことは大変大事なことであると考えているので、先を見越してそういう諮問を考えている。また、分館を含め現在6館あるわけだがたとえば西国分寺に図書館がないなどの課題はあって解決しなければならないことがあるが、7館目を作る話は難しいと思う。2年間よろしくお願ひしたい。

館長：それでは、次第に従って進めるが、第1回の会合なので、まず委員の皆さんの自己紹介をお願いしたい。

委員：岡田です。この協議会を1期からやっている。2期も続けて4年間やっていた。3期も引き続き頑張る。新町に住んでおり並木がホームグラウンドで週2回利用している。机の上の会議をかしこまってやると現実から離れてしまうが再度利用者の視点に立って図書館がどうあればいいかということをお皆さんと一緒に考えて行きたい。

委員：1期と2期も務めた須藤です。泉町の自宅で、はらっぱ文庫を主催している。ライ

フワークは「でんでんたいこ」という語り（素話）のグループで、年間100クラスの子どもたちにおはなしの出前を行っている。市民の声として役に立てばと思ってやらせていただく。

委員：寺井です。会社の転勤で国分寺に住んで3年弱。図書館を非常によく利用しており助かっている。専門的な知識はないが利用する側の目線を通して協議会に役に立てればと思う。

委員：中村です。東恋ヶ窪に住んでいる。国分寺市に34年住んでいる。国分寺市は公民館・図書館が大変充実している。恋ヶ窪と本多を利用しているが、リクエストで他市の図書館からの借用などよくやってくれる。利用者の視点でできるだけ議論に参加させていただきたいと思っている。

委員：東京経済大学の関という。1期2期と協議会の委員をしていた丸本さんが館長を退任し、今の館長は外から来たので図書館は初めてということもあり、代わりに私がこの委員をやることになった。住まいは品川で遠いところから来ており、勤務地が東京経済大学という場違いな感があるが私立大学という皆さんと立場が違ったところから来ているのでそういう視点で参加させていただく。

委員：藤沢です。30数年日野市の図書館の職員をしている。その経験を生かして役に立てればと思っている。国分寺市含めた市の財政状況をみると、経常比率の数値が低い。80、90が続いており、そういった中で図書館をどう運営していくかいい知恵がないか考えていきたい。

委員：山口です。東京学芸大学で図書館学を教えている。1期と2期会長を務めた。国分寺の協議会はハードで活発な議論をする協議会だと思っている。実質的な提言をしてきたのではないかと思う。3期は諮問があるので本音で語り合えるような協議会を期待している。

委員：本間です。障害者団体から来た。2期の最後の協議会に出ただけなので、いろいろ教えていただきながら、自分の立場から何をお話し、聞きとって戻ればいいのかわからないがよろしくお願ひしたい。

委員：上野です。小中学校PTA連合会から派遣されている。会長経験はないがPTA連合会と図書館との連絡役というイメージをもって参加させていただいている。図書館に関する知識はないがよろしくお願ひしたい。

館長：市民5名、学識経験者5名委嘱の方、今日は吾妻委員が病気で欠席である。次に事務局職員の紹介をする。課長と、それぞれの図書館の係長館長、本多図書館の担当係長が出席している。

事務局職員紹介。

教育長退席。

館長：正副委員長を選出する。第1期第2期委員長を務めていただいた、山口源治郎先生に会長を、副会長は公募市民の方から選出するという伝統で、また続けていただいているということで須藤初枝さんにといいことか。皆さんの了解が得られ

たのでよろしくお願ひしたい。ではお2人は会長副会長の席へ。ここからは司会は会長副会長へ移るが、先ほど教育長が申しあげたように3期の諮問は、IT時代を迎えて今後の図書館は、ということだか政策としては、もう少し文章を練ってからにしていきたいので今日は間に合わない。今日のプログラムでは、1, 2期の運営協議会の成果の紹介と図書館の紹介をする。あとは会長副会長にお任せする。

会長：今回3期目の会長である。1期目は手探りであった。国分寺の運営協議会は図書館法に決められている図書館協議会と違う。国分寺市独自のもので、委員の半分は市民公募である。半数市民が入ってどのような空気になるのか自分自身も手探り状態であったが、活発な議論ができる運営協議会だった。1期目は教育委員会からの諮問である「市民サービスの向上を図るための図書館のあり方について」に対し2年かかって議論し、答申を出した。2期目はそういうものを踏まえながら図書館評価を作った。3期目は新たな諮問があるが皆さんが本音で話していただきたい。先程寺井さんが言った利用者目線で図書館のことを議論しながらどうしたらいいのかという議論の場にするという雰囲気作りが私の仕事かと思う。そういう視点で皆さんのご協力をお願いしたい。2期やっても会長の仕事には慣れないが皆さんの協力、率直なご意見を頂きながら進めていきたいのでよろしくお願ひしたい。

副会長：1. 2期は今傍聴している松田さんが副会長で、自分は言いたいことを言っていたが、2時間しかない中で濃い議論をするには今日は何が目的かということを考えて発言しなければいけないのだが、言いたいことを言っていた。この席では残念ながら言いたいことが言えないが、山口先生を支えて皆さんから意見を言っていただきいい会にしていきたい。

会長：プログラムに沿って、第1期2期の審議内容について館長の方から。

館長：その前に資料の確認をする。

資料の確認。

会長：では第2期の議論の経緯を。

館長：第3期なので第1期第2期に議論していただいたものはすべてお渡ししようと思ったので、とりあえずお持ちになっていただきたい。目を通していただき、必要な時に見ればいいものとしてチェックしていただきたい。まず、「市民サービスの向上を図るための図書館のあり方について 答申」が第1期の成果である。教育委員会がこの題名の諮問を出し、それに対して議論した成果がこれである。国分寺の図書館が発足してから35年たっていたが、発足の前に社会教育計画の1部として構想はあったが図書館独自のものを持っていなかったもので、諮問を受けて、何を踏まえてやるのかという時によその市ならいろいろあるはずのものがないというチェックを受けながら、とりあえず基本となる計画を作っていたというものである。国分寺の図書館に従事している職員、そして現在の総括と今後の評価、基本的に何が足りなくて何を目指さなければいけないかということを確認していただいた。背景にはいつもこれがあるという役割になっている。もう一つ、いただいた答

申をもとに「国分寺市立図書館の市民サービスの向上に向けた指針」を教育委員会の方針として定めた。その指針の初めに経過のいきさつとして、運営協議会で答申をしていただきその答申をもとに教育委員会の考えを示し図書館サービスの向上を目指しますということが加わり、2009年2月26日付の教育委員会の文書として定まっている。内容はほとんどそのままだが、運営協議会の第1期で作っていたものが教育委員会の方針になっている。市立図書館のホームページに答申も指針もアップしている。自分たちも大事にして使っていきたい。これが第1期の審議内容である。

全国各自治体で、子ども読書活動の推進計画を作りそれに基づいて活動しなさいというのが国の法律で定められている。運営協議会の答申の議論と並行して、遅ればせながら「子ども読書活動推進計画」を検討している途中だった。国分寺市としての事務局を図書館が務めた。この計画は作りとして市役所の子どもの読書に関わりのある部署は全部が協力してそれにあたり、かつ行政だけでやるのではなく市民とタイアップして市としての読書活動の充実に努めるということであった。国分寺は中央図書館がないので内部事務をやるのは不慣れであったが、図書館にとっては重たいことをさせていただき、子ども読書活動推進計画を作った。それを受け、できた推進計画（5年）を毎年進行管理をしようというのが、第2期の冒頭に議論していただき、お配りした進行管理表、これは膨大なものを整理したものである。このページは、今年はここまで行うというのを毎年チェックしながら進んでいくということで平成20年から発足している。第2期はその点検をしていただいた。第2期は、第1期にあったような教育委員会から諮問が示せなかったので、運営協議会の方から提案し、「国分寺市立図書館の図書館評価」を作っていた。答申に書かれていることの具体的なことらについての実務的なことを表に落としながら、何が目標で、1年ごとの目標を何にするのかということ、子ども読書活動推進計画進行管理表に倣った形で1年ごとに目標を立てて、ワーキンググループを作ったとき台を出す会をつくってやっていただいた。図書館側の評価と運営協議会側の2次評価がある。2010年10月7日になっているが、2年間の任期の終わりに作っていただいた。年度が終わったら図書館側の評価と実績を入れて協議会の議論にさせていただく予定である。年に5回の会合なので年度が変わるとまた子ども読書活動推進計画の進行管理票の昨年度実績を説明する新しい表と、評価表の図書館側の年度説明と評価を入れたものをお配りして点検していただくという恒常的なものと同時に諮問に対して提案していただくということになる。用意が出来次第、市全体の子どもの読書活動がどこまで進んだかという進行管理表と、図書館自体の評価表を提出するので点検していただきたい。

教育長がいったIT時代を迎えて図書館と読書のあり方についてという議論を2年間のスパンの中で、進行管理をしながら議論していただくということが活動になる。運営協議会側から教育委員会を通じて図書館に対して提案や発議をしてい

ただくことがあるので、そのつど必要な情報は提示していきたい。

年に5回なので、国分寺の図書館は大きい図書館はないが、自分のホームグラウンドの図書館以外は知らないという方も多いので、次は違う場所というふうに各館を回りながらやっていきたいと思う。これが1期2期の活動内容と3期のスケジュールであるがそのあたりのことを踏まえて会長副会長を中心に皆さんから議論や発議をしていただければと思う。気になることがあったら質問したり、資料を出すように言ってほしい。

会長：概要だったが、質問があれば。特に新しい方で疑問を持った方がいるのでは。答申についても説明すると、国分寺市の図書館は東京の中でも利用度の高い図書館で、市民に好感を持って使ってもらっている。リクエストなどいいサービスを維持している。第1期に提言させていただいたが、国分寺の図書館は地域館が5つ、分館が1つあり6つで維持しているが、大きな中央図書館がない。それぞれの地域館はある程度の水準の図書館ではあるが、最近の利用者の情報要求は多様化しており、質的にもう1段高いものを提供しなければいけない。そうするとこれまで地域館として中学校区に1館作っていったということ自体は大事なことだが、そういう地域館の活動を高めるためには中央館を作ることが大切なのではないかとということで中央館構想を提言した。また図書館の空白地域をどういうふうに埋めていくのか、西国分寺地域に分館あるいは地域館を作る必要があるという提言をした。そのことも大きなことで、先ほど館長が成果物といったが、具体的に国分寺の図書館体制をどう進めていくのかという重要な提言になっている。そのようなこともあり、私たちが積極的に提言をしていくことが大事であるが、最近はお金がなくて取り下げられることが多い。市民の声が大事であると思う。もし新しい方の中で答申や評価に対して質問や意見があったらお願いしたい。

委員：質問だが、障害関係のことで、答申の中で出ている中身が評価に落とし込まれているのか、もともとこの事業はどのくらい前に作られたのか。何年ごとの計画とかないのか。

館長：国分寺市については図書館自体の年次計画はない。市の中の長期総合計画の中で課題だといわれていることはあるが、図書館の年次計画というのは市の中では定まっていない。具体的な数値の出る計画はないが、先ほど申し上げたように、前段の考え方を示すようなものとしてのあり方答申をしていただき、それが一定の緊張感や縛りになっていたり、教育委員会が答申を受け入れて教育委員会としての指針にしたということで、もう少しリアリティのあるものについては図書館としても課題だが、今あるとすれば、あり方というのがそれであるかもしれない。

会長：図書館評価については5年計画10年計画というのはないが、ここでいう3番目の目標というところが一般的にいう目標で、それをもとに具体的に今年度はどうしていこうというところで単年度ごとに目標を立てながらどこに課題があるのかということをやっていくというスタイルになる。その点では5年の計画年度があつてとい

うのは「子ども読書活動推進計画」がそのイメージに近いものになっている。

諮問について、教育長の方から主旨を説明されたが、そのことについて補足して何かあれば。

館長：手続きが踏めれば、また依頼の中身をもう少しはっきりすればあのような方向の諮問をお願いすることになる。経過としては、委員さんの方からもあったが、IT時代を迎えて図書館はどういうことを考えているのかということもあったし、一方でIT時代を迎えるので、ある面電子データが個々人に行くので図書館ではあまり整備する必要がないのではないかという議論もあったりした。そういう中で教育長は率直に言っていたが、国分寺市立図書館として紙の本を継続しながら電子的な図書館をどれだけ政策としてプラスでつけてもらえるか財源や余裕はないが将来の方向性や市民目線での評価、平成22年度は電子読書機器がいろいろ売り出されて話題になっていたが作家の中にもそちらで売り出すという話があったが、今年度以降落ち着いたらどれだけ売れたのかどう続くのかということもある。全体的には図書館の側も少し前なら売っていた年鑑や百科事典などが紙では出なくなっているということもある。少し前に出た本が紙では売らなくなっている。そういう中で読書環境の整備と図書館のあり方、将来の方針も含めてIT時代を迎えて図書館と読書のあり方について議論していければと思う。ただ抽象的な話でもあり、具体的なやれるスケジュールや手応えがあってそのことについて議論してくださいという具体的なことではないので一般的になってしまうこと、また実は著作権のからみなどで、図書館で電子的な配信ができるかできないかが文化庁の方でも議論の途中になっているので、そういうこともにらみながら情報提供をしていくが、1年後に制作しますのでそれまでに何をしてくださいということではないので3期2年の間でIT時代の今後に向けての図書館や読書のあり方について一方で子どもへの読書の提供の楽しみといったことを提案している方もいて、障害者への環境ということで基盤を持っている方もいて、あるいはご自分の読書環境の問題というところで皆さんそれぞれの関心の問題意識を持って意見をすり合わせていただくようお願いしていけばいいのかと思う。

会長：毎年研修をしている。これは継続していただきたい、答申を作っていく過程の中で学習会を行っている。電子出版・電子図書については私自身も詳しくない。皆さんと問題意識を共有するための研修・見学を含めた学習会などを入れながらやりたい。前期からの積み残しとして、教育委員と懇談するということがある。3期には教育委員と懇談のできる場を機会があればやっていきたいということを要望したい。

館長：年1回見学をしようということになっている。毎回、会議をやった日の午後、その流れで参加できるものはしたい。今年度はまだ行っていないので日程を調整して会の午後の見学、皆さんのご要望で半日で行けるところの段取りをつける。まだ少し早いのかなとは思いますが、先ほどの話の関連で2月か3月の会合で午後に見学ということが出来る。千代田図書館が配信センターということでは話題だ。あるいは関さ

ん、大学図書館としてどこかいいところはないか教えていただければと思う。教育委員会に話はしてあって、段取りまで行かないうちに2期は終わってしまった。教育委員がうまく集まっている時間帯にということになると思うが任期が始まった直後より少し議論した上での方がいろいろ質問していただくにはいいのかもしれない。

会長：委員の皆さんからは今期2年間このようにという進め方とか見学はどこへとか意見があればこの機会に出していただきたい。

委員：ITというのは一口にITといっても何がITなのか。各委員が想像しているものがばらばらだと思うので、想像しているもののレベルを共通の認識として持つためにはどこかを見学してIT化の事例を見て議論したほうがいい。

委員：さしあたって現実に課題になっているものがあると思う。ITは今すぐやらなければならないものではないと思う。原点から考えていかないと5年後なのか10年後なのかわからない。図書館評価は4年間議論してきた中でもまとめとして、一般市民が図書館を評価してこれでいいのか、こう変えてほしいのか。内容がこれだけ網羅されている。この内容で職員みんながチェックして直していこうという現実に沿った仕事をしていくためのことをやれたらいいのではないか。たまたま教育長からあったが10数時間の中でITのことだけやってしまうのではなくもっと大切なことがあるのではないか。2本立てで1年目はやめてしまうとか、並行してやっていくか、柱を2本か3本か立てて考えてやっていかなければならない。

会長：諮問、評価、子ども読書、大きくはこの3つなので時間配分を考えながら事務局と私たちで考えたい。そのほかに皆さんの方からこういうことも議論してほしいというのを出してほしい。

委員：障害者サービスの事業のところかというと、私は知的障害の子どもがいるがそういうところとは違う部分の事業だという気がする。これを評価していくのか。違う意味のものを入れて行けるのか。ここで変えられるのか。目が見えない耳が聞こえないだけでなく知的障害の子に本は必要なのか。という議論になってしまうがそういうことも含めて図書館なのならそこが盛り込まれたらいいと思った。

どこで事業を決めるのか、評価していくのか。必要なものは加えていただけるのか。

委員：図書館として計画があってそれをチェックするというのが会社とかの目標の数値。誰かが作って10年も前からあるのではなくプロジェクトチームを組んで先生の指導をもとに作っていったというのが現実で、どういう評価を出していくのか市民の目からみてどうなのか。頭の中だけで考えてチェックしても仕方ない。ITだけでなくそれに拘束されるのではなく対応していただきたい。

委員：IT時代といって、本とか読書とか図書館という将来にかかわるので、本が今後どうなるかを一定議論しなければならないと思う。紙の本はなくなるという人がいたり出版社の方でも本ではない方向に走り始めている人がいたり、本も古本を安く売る方向になっていたり、そのまま行くのか、やっぱり紙は違うし深さが違うし目的

が違うのだからぐらつく必要はないのか、一定話しておかないといけない、それと図書館評価にかかわってくる。出版社も行方は分からないと思うが一定議論した上で今後どうあるべきかは議論すべきだと思った。また、今までやってきた評価で数量的に何回というふうに数字的に攻めるのはどうか。もっと大きなやわらかなやり方で今後どういうふうにあつたらいいのか議論したい。

会長：数字だけで評価をつけるのではない。

委員：現場はきついのではないか

会長：これは決定版ではなく、取り合えずこういう形でやってみよう。だめなら違う形でやってみればいい。とりあえずやって自分たちの目線で評価してみて、ここだけでなく岡田さんが言われたように利用者市民に公表したいというつもりである。わかりやすいようにしたつもりである。こういうところを評価しようとしているのだということをも市民とともに共有できるような形にしたい。やりながら考えてみようかということである。他はいかがか。

会長：報告事項に移る。

事務局：答申の説明、子ども読書活動推進計画の説明、評価の説明をそれぞれ行う。

答申の説明。

子ども読書活動推進計画の説明。

図書館評価の説明。

国分寺市立図書館の運営とサービスの現状は時間の関係で省略。

事務局：次に各館報告。

もとまち図書館：はらっぱ文庫との共催で講演会、なかよし文庫との共催で講演会、もとまち図書館講演会がある。

並木図書館：1月22日講演会。3館が利用者懇談会を行う。

恋ヶ窪図書館：ICタグを貼付している。今年度中にすべて終える。

本多図書館：蔵書点検を各館順番に行う。

館長：利用者懇談会は、年度の前半に半分やったので今回は、2館といずみホール。いろいろなところに参加していただきたい。

委員：先程の教育委員会との懇談というものはどういうテーマで行うと考えているのか。少し考えておきたい。

会長：答申を出して、国分寺の課題はこう考えていると上げさせてもらったのに対し、どの程度見込みがあるのか、委員が図書館をどう思っているのか、公民館は年1回やっている。図書館長を通して意見は言っているが直接教育委員に対してやっていきたいというイメージである。2年間追い追いろいろなことを話すことがあるので利用者としてのご意見を出していただきたい。事務局から何かほかに。

事務局：次回には諮問をお示ししたい。それと日常活動の培ってきたものとの兼ね合いをどうするか、答申をどういう扱いでやっていくか、どんなスケジュールでどのくらい時間をかけてやるのかということもこの会の中で考えていただければいいと思う。

教育委員会としてはこういうテーマで2年の間に一定の見解を頂きたいということである。それと、今日はいろいろなものが出たが、何人かの方から出た、自分の関心のあるものについて足りなかったとか、こういう業績評価のようなものはいかなものかというような意見が出たり。会長がおっしゃる話かもしれないが、年度が変わったところで項目を変えていこうとか課題の選定を変えてみようかというようなことも議論になるのでその辺のことも含めて議論になるかなと思っている。いろいろな資料を配布したが、いつも持っていただいてベースにしながら必要な時にチェックしていただければと思う。

会長：次回の予定は。見学のこともあるので、日程的に3月か。

事務局：新しいメンバーが来られてスケジュールを出していただいているかどうか。

会長：これまで1期2期自分が木曜日を開けているので木曜にさせていただいた。この曜日はだめだというのがあったら、委員の皆さんに出していただき、設定したい。定例的にだめな曜日はあるか。

委員：水曜日、火曜日。

会長：月曜日は図書館休館日なので、これまで通り木曜日で時間設定していきたい。時間帯は午前が多かったが、夕方もある。毎回とは限らないが。木曜の午前中でよいか。

館長：議会のある月で、3月17日24日はない。

24日でよいか。見学をするなら駅に出やすいところ。ベースは本多で。

3月24日（木）10時から12時で見学もこの日に。こういうところが見たいというのはあるか。

委員：ITの進んでいるところで説明もしてもらうのはどうか。勉強会の時間をとって都下のこの周辺では。

委員：東京経済大学は今一つだ。

委員：市立の図書館で、先行してこの辺まで進んでいるところがあるなら参考になる。

委員：ITの話が出ているが、ITの概念を整理した上でないと、電子書籍のことかサービスのIT化か、どの辺に絞るのかの整理が先ではないか。

委員：1回勉強会をさせて頂くと今後の方向性が出せる。

館長：今後ITのことはならむが議論が必要。遠くないところでいえば三鷹図書館。ICタグを貼っていてブックポストに返したとたんに返却になる。何をどこまでやるか。今ICタグを貼りながら考える時期。具体的なところは取材していないが公共図書館の新しい事例では府中、あきる野は行った。

事務局：三鷹は市長も含めそういうところに力を入れているというスタンスがある。

委員：ITに関しては日野が特にいいわけではない。

会長：武蔵野は、10万規模の都市で蔵書の奥行きがある。三鷹は自動返却がある。

事務局：公共図書館を中心に事務局の方で三鷹・武蔵野あたりコンタクトを取ってほしい。

会長：皆さんの方で、この点をどうしてもということがあれば。なければ第1回ということなので、これで閉会する。では皆さんありがとうございました。